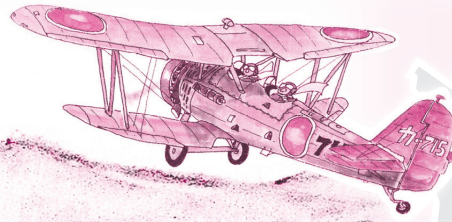


# 予科練 平和記念館だより



予科練平和記念館整備推進室では、予科練や海軍に関する資料や写真を集めています。ご存じの人はぜひご一報ください。

**北**のほうからぼつぼつと紅葉の知らせが届く季節になりました。皆さんはいかがお過ごしでしょうか。今月号は、8月に開催した特別展の様をご報告します。

8月4日～26日の20日間、図書館視聴覚室およびギャラリーにて『予科練展Ⅱ 手紙―予科練から、戦場から―』を開催しました。今回は予科練生（海軍飛行予科練習生）の心の部分に光をあてるため、戦時中町にあった霞ヶ浦海軍航空隊（現武器学校一帯）や土浦海軍航空隊（現茨城大学農学部一帯）に在隊した予科練生の手紙や手記を中心に所蔵資料を紹介しました。これらは残りにくい資料であるだけに、今回5人の予科練生の手紙23通を紹介できたのは意義のあることではないかと思えます。また、戦時中パイロットとして長く海軍に所属し、戦後は町にお住まいだった人が、妻や幼い娘に送った手紙、南方の戦場に従軍した折につけていた日記、昭和20年6月10日の空襲に関する調査報告などもあわせて展示し、大きな反響がありました。

初の試みとして、9人の町民ボランティアに会場内での案内をお願いしました。親しみやすい会場づくりに一役かったださった皆さんに、この場を借りてお礼申し上げます。

会期中は町内外から1876人もの人にご来場いただきました。戦争当時を思い出す人や町が戦争と深くかわつた地域であったことを初めて知った人などさまざまでしたが、特に子どもや孫を連れて来場し、戦争のことを教えながら見ていた人や、夏休みの宿題で予科練について調べに来たという小学生が多かったのが印象的でした。

「樹高千丈 落葉帰根」という言葉があります。これは、中国禅宗の六祖慧能（えのう）禅師の言葉で、「落ちた葉はその根本で養分となり、高い樹を育てる」というような意味です。今回の特別展を通して、戦争という困難な時代を生き残った人たちが残した言葉、それは時を経て現代の私たちのものに届き、今という時代を生きていくひとつの糧になったのではないかと、というような気がしてなりませんでした。

## 来場した皆さんから いただいたアンケートより

戦争とはとてもひさんなものだなと思った（小学生 男性）

阿見町にもこんな事があったなんて初めて知りました。自分の町に何が起ったのかを知れてよかったです（中学生 女性）

戦争を経験していない私でもその当時の苦しみがひしひしと伝わってきました。戦争を二度と起こしてはいけない、命を大切にしなければいけないということを改めて実感しました（高校生 女性）

国の為命を投げ出していった予科練生の気持ちを感じることができました。こうした歴史を忘れないよう自分もこれから精一杯生きていこうと思いました（大学生 男性）

祖父は軍人でしたが、私がその体験を詳しく聞くことができません。いまま他界してしまいました。もつと聞いておけば…という思いでいっぱいです。戦争に対する意見は様々ありますが、「これが正しい」というものはないと思います。私のように戦争を知らない人も、戦争について知り、考えることが大切だと思います（20代 女性）

普段学校で接している生徒たちとさして年齢のかわらない子ども達がつづった手紙から、予科練に合格した喜び、訓練生活のつらさが伝わってきました。手紙の中に常に家族を思う気持ちがあふれていたことが心に大きく残りしました（30代 男性）

今現在の平和な時代を大切にしなければと強く思いました。帰ったら息子（22歳・19歳）と話をします（40代 女性）

手紙他数々の展示された遺品を見て私自身の父の青春を思った。運命とはいえ戦死した多くの若者たちの犠牲の上に今の平和があることを忘れてはならないと肝に銘じた（50代 男性）

私が嫁ぐ時母が父の戦争中の写真と戦地からの手紙を嫁入り道具の中にのばせてくれました。姉弟に分散していた亡き父の手紙をひとつとしてお役に立てたことを嬉しく思います。天国の両親も微笑んでいることと思います（60代 女性） ※手紙を展示させていただきます（ご家族より）

2度と戦争にまきこませまい。平和な世界こそ全人類の唯一の望みです。我々はその先頭に立たねばならない（80代 男性）